

5. 授業・試験・評価

大学に入学することを目的に高等学校までの学習を頑張ってきた皆さんが、入学式には目を輝かせて出席するのには、授業が始まると同時に、何をどのすればよいのか途方にくれているように見えることがあります。将来何をしたいのかを考えることができないとか、大学で何をしたいのかもよく分からなくなるということにならないようにするためには、ただ、何となく日々を過ごして、3年生になり就職活動に走り回るのではなく、4年間の大学生活を有意義に過ごすためには、大学生活のコアになる学習・研究に意欲的であることがとても重要です。

1 授業の受け方

大学の授業は講義、演習、実技（実習）の三つの形態に分けることができます。講義は多人数の学生に対して（しばしば一方的に）知識の伝達が行われますが、演習（ゼミ）は少人数の学生を対象とし、積極的な学生の参加が求められます。演習科目や実技（実習）科目については学生一人ひとりがその授業に参加し授業を形成し、授業の質に影響を及ぼしていることを自覚してほしいものです。そのためにも、みなさん一人ひとりが以下のことを心がけるようにしてください。

〔1〕授業の前に

大学では基本的には自分で勉強するところです。研究機関、図書館を利用することが重要です。新学期が始まった第1回目の授業では教材と筆記用具をもって時間どおりに教室に入ればよいかもしれませんが、大学の殆どの授業では学生が『自修』を行うことが予定されています。「自習」ではありません。

講義や演習（週1回の授業で半期2単位のもの）の場合、授業時間の2倍の時間に相当する「自修」が要求されています。何をすればよいのか、その授業やみなさんの勉強スタイルによって異なるでしょうが、教材が指定されている場合には、その日に学ぶであろう部分を読んでくることは最低限必要なことです。

演習（ゼミ）では、当日発表することになっているのに準備してこな

便覧 <第2履修方法>

本学は、4学部9学科から構成されており、所属する履修年次区分によって授業科目を適確に履修しなければなりません。授業科目はすべてその年次において単位取得しなければ卒業単位に欠けるおそれがあるので注意しましょう。卒業の資格を得るには4年以上（8ヵ年を超え手在学习することはできません）在学习諸条件を満たした卒業単位を修得しなければなりません。

（本学便覧参照）

●履修科目の登録（履修届）希望する履修科目の単位の取得するためには、年度始めに行うガイダンスを受け、その年度の履修科目を時間割にそって選択し、本学の履修届に記入の上指定の期日に教務部へ提出します。

●履修届記入上の注意をよく読み間違いが無いか確認しましょう。

<シラバス Syllabus>

講義の目的、スケジュール、成績評価方法、参考文献など講義の詳細な情報がシラバスには網羅されていますので確認しましょう。

いというのは、高校のときの「宿題を忘れた」というレベルの話ではありません。授業を妨害していると言っても過言ではありません。先生は学生の発表を予定に入れて、その日の授業の計画を立てています。したがって、授業は先生だけではなく参加している人全員でつくるものなのです。

実習では、みなさんのために実習施設と協議し計画を立てて行います。授業や演習で得た知識と技術を統合する場です。ただ漠然と実習に出向くのではなく目的意識をもって臨むことが大切です。

【2】授業中

（1）きょうは何を学習するのか、授業の目当てと見通しをもとう。

きょうの授業で解決していこうとする疑問・課題（めあて）をしっかりともち、これまでの学習と何が違うのかを考え、どのような方法で、どのように考えていけば解決できるのかという見通しを持つことが大切です。

（2）「自分はこう思う」という、自分の考えをもとう。

これまで学習したことを使って考え、自分の考えの根拠や理由をはっきりさせることが大切です。他の解き方はないかを考え、書かれている上表や導き出した結論が本当に正しいかどうかを考えてみましょう。

（3）考えを伝え合い、深め合おう。

自分の考えを書いたり、友達に分かるように話したりしてみましょう。絵・図・表などを使って、分かりやすく伝える方法を工夫するのもよいでしょう。また、友達の考えと自分の考えを比べながら聞き、互いの考えを交流することも更に考えを深めることにつながります。

（4）分かったことを自分の言葉でまとめよう。

知ったこと、分かったこと、今まで学習してきたことなどと結びつけながらまとめ、学習の仕方や自分の頑張りなども書いておきます。

家庭学習でしたいことやもっと学習したいこと、次の時間に学習したいことなどを書いておくことも大切です。

予習で分からなかったことは授業中に解決されるはずですが、しかしそれでも分からないことは大学では基本的に自分で勉強するところですから、研究機関・図書館を利用しましょう。

【3】ノートのとり方

（1）「講義ノートをつくる」

大学におけるノートテイクは、単に「板書を書き写す」のではなく、「自分の講義ノートをつくる」ということになります。大学の授業では、

<単位の設定>

- 講義は、15時間の講義をもって1単位
- 演習及び外国語は、30時間の授業をもって1単位
- 実技は、30時間の授業をもって1単位
- 実習は、30～45時間の授業をもって1単位となります。

大学では1週に2時間単位の授業を行うので、講義の場合は毎週1回2時間で半年間2単位とする。ただし、科目によっては通年2単位とするものもあります。

モチベーションを高めるために

- 勉強する動機を持ち、自分の価値を高める。
- 知識も重要ですが、むしろ一人で勉強する能力を高めることが更に重要です。
- 本や雑誌などにはお金を惜しまず自分への投資とすることも大切です。

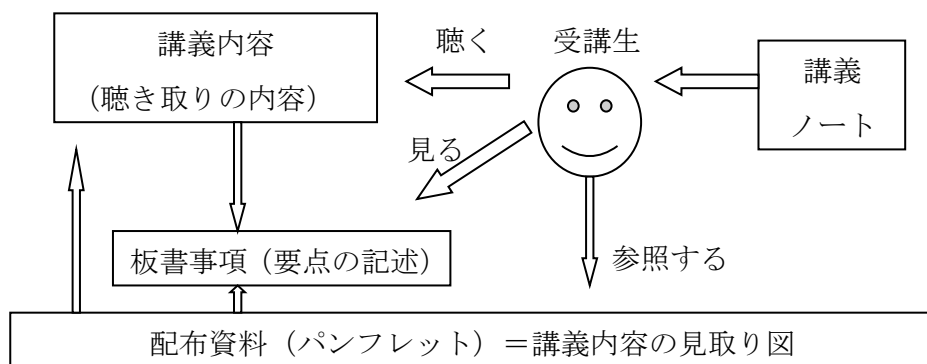
<授業中のマナー>

授業中は、一人ひとりが授業に参加し、授業の一部を担っています。以下のことに注意しましょう。

- 授業中は、私語は慎む。他人の迷惑になるのでささやき声も禁止する。
- 携帯電話の電源は授業が始まる前に切っておきましょう。
- 授業中の教室の出入りは原則できません。やむを得ない事情で遅刻した場合や相対しなければならぬ場合、静かに目立たないように入退室しましょう（あらかじめ遅刻・早退をしなければならぬ場合は、担当に教員にお断りしておきましょう。

どの科目の授業でも、皆さんに聞かせたいこと、学んでもらいたいことがたくさんあります。それは、単に知識を豊かにしてもらいたいというだけではなく、いろいろなものの見方や考え方に接して、学ぶことの面白さ、自分のアタマで考えることの面白さを実感してもらいたいからです。テキストを使って独学で学べないことを考え、学ぶことができます。その時間の授業の内容を自分がどう理解したのか、何を学んだのか、どんな疑問をもったのか、何をもっと知りたいと思ったのか、自分のアタマを巡ったそうした事柄を「その授業で学んだ専門用語を使って書きとめておく」ためのものです。

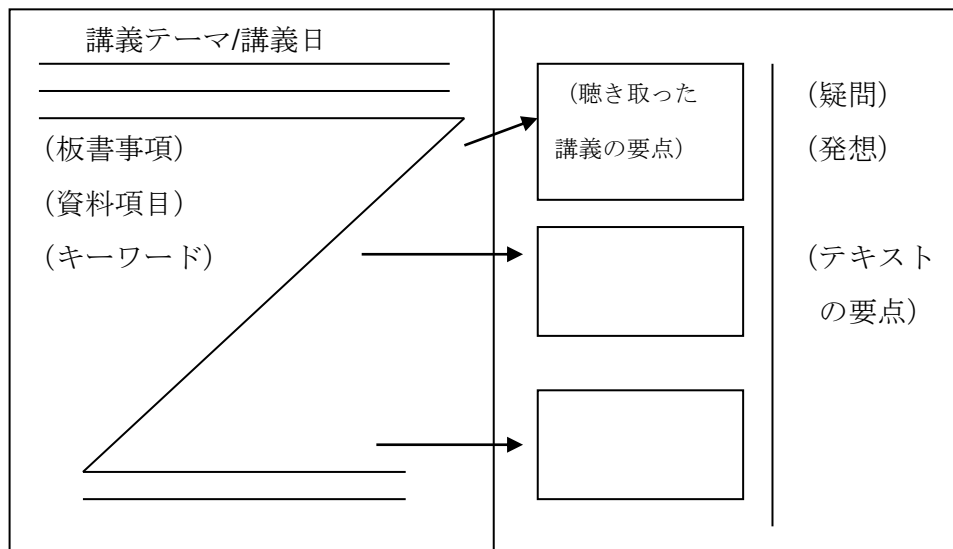
(2) ノートづくりの基本



<一つの見本>

見開き左面

見開き右面



2 試験の受け方

試験とは、便覧の第3第2 定期試験を参照 試験規程により行います。定期試験は、前期・後期に期間を定めて実施される試験のことをいいます。科目によっては年1回することもあります。

講義ノートづくりの要点

- その時間の授業で学んだことの要点が思い出されるか
 - その時間の授業で自分が考えたことが思い出されるか
 - その科目で教員が何度も強調したことが確認できるか
 - その科目の内容で疑問に思ったことを明確にできるか
 - その科目に対する自分の要望を述べることができるか
- 詳しくはテキスト3章5節「講義ノートをつくらう」参照

<資料の整理技法>

- 配布されたプリントなどの整理をしておく。
- 日付とページを書き込む
 - 渡された順番にためておく
 - 科目ごとにまとめておく

各種の演習、実習科目については、出席時間・レポート提出または授業時間中の試験により定期試験にかえることがあります。

試験時間は、便覧第3章試験規程第3条（試験時間）を参照。

〔1〕大学の試験の重要性

大学では単位を取得し、卒業に向かって進級していくわけですが、避けておろすことができないものが試験です。よい成績を残すことのみが大学の学問の目的ではなく、通過しなければならない関門として試験が存在します。

大学の試験は、入学試験と違って、受験者の選別を目的としていません。学習者が学習目標にどれだけ到達したかを測定し、評価を与える絶対評価です。

シラバス等で発表されている学習目標と著しくかけ離れた試験は、大学では考えられません。学習目標を把握して学習を進めていけば、いい成績は自然とついてくるはずで

〔2〕試験の種類や内容

試験には、様々な形式・形態があります。筆記試験では、問題としては、空所補充問題、多肢選択問題、正誤式問題、記述式問題などがあります。また、技能が評価される科目では実技試験が課せられます。コミュニケーション能力の修得を目標とする英語等では、会話能力、口頭面接等が行われます。

大学では学期末の試験期間に実施される定期試験があります。定期試験は大学の試験の中では、最も重要で単位の取得に大きな影響を及ぼすものです。先生によっては、毎回の授業で小テストや予告なしに抜き打ちテスト、または中間テストをする場合があります。それぞれ異なる目的があるのですが、大事なことはテストとは必ずしも測定・評価のためだけの目的ではなく、学習者の学習を望ましい方向へ導く学習支援の目的もあるということです。

〔3〕試験の準備

（1）試験時間割の確認

定期試験の日程が掲示及びユニバーサルパスポートなどで発表されたら、まず自分の履修科目の試験日と会場の確認を行います。科目によっては、通常の授業と異なる時間帯に、異なる教室で実施されることがありますから、正確に試験日と教室を確認する必要があります。

<定期試験>

- 試験の日時、試験会場を確認しておきましょう。
- 無資格者は定期試験を受けることができません。
- 受験資格の証明として学生証を持参し、着席した机上通路側に顔写真がみえるように置く。
- 遅刻及び退室について、試験開始後20分以上遅刻した者は入室できません。また、開始後15分を超過し、活試験監督者が許可したときは体質することができます。ただし、一旦退室した者は再入室することはできません。

<レポート試験>

- 用紙・表紙：用紙は特別の指示がない限り本学所定用紙を使用する。
- 記述方法：鉛筆出の作成は避けること。
- 提出方法：専任教員（担当教員の研究室へ提出すること）兼任教員（教務部のカウンターの「レポート受領ボックス」に提出すること）
- 提出期限：提出期限を確認し、必ず期限前に提出する。

<追試験>

- 追試験と再試験は異なります。追試験は定期試験実施当日に規程で定める事由に該当し、定められた期間内に教務部を通じて学長に追試験願書を提出し、正当な理由と認められた者が受けることができます。（便覧第3章を参照）

(2) 学習スケジュールの作成

試験のための復習は、直前になってあわてないですむように、早めに始め、少なくとも試験の1, 2週間前にはコース全体の復習をはじめましょう。日頃の学習が大事なことは言うまでもありませんが、試験前には、特別の学習スケジュールの作成が必要です。アルバイトなどをしている人は、早めの調整をして勉強のための時間をしっかりと確保しましょう。同じ科目を履修している友人と勉強会などを計画するのもよいでしょう。目標を定めて余裕をもって臨んでください。

(3) 試験勉強の戦略

テストの得点が、履修科目の成績評価の何%を占めるのかを把握して準備を進めるのは当然ながら大切です。シラバスで公表された内容や授業の最初に教員から発表されるはずですから、よく確認しておく必要があります。興味、関心がない科目では学ぶ意欲はわきませんし、単位を取得しても、将来のためには何の意味もなし得ません。自分が学びたいものを探求する姿勢が科目選択の前提条件です。

まず、試験勉強をする際には、重点をどこに置くべきかをしっかりと把握しておくことが大切です。テストで何が試されるか、教員がテストで何を期待し、何を高く評価するかを理解して準備しているか否かは、間違いなく成績に大きな差となって表れます。

試験前の断片的な知識の詰め込みは、ほとんどすぐに忘れてしまいます。その教科書の骨格を把握し、その後主要なポイントを復習することによって、記憶を新たなものとすることができ、授業全体の理解が深まります。

十分に復習した上で理解できないことがある場合は、教員に直接質問して確認します。真剣に勉強し、質問事項を持ってくる学生を教員は大意に歓迎するものです。試験が近づいてきたら、試験の時間帯に頭脳が活発に働くように生活を整えたいものです。不規則な生活を送りがちな人は、特に注意しましょう。

試験当日には、改めて試験時間、教室を確認し、大学で配布されている定期試験受験心得などをよく読んでおきます。遅刻をして受験資格を失わないように余裕をもって学校に向かいましょう。持ち物としては、学生証、筆記用具、時計は必携です。試験場では、携帯電話の電源を切ります。

科目で特に持ち込みが許可されたものなどはリストアップし、忘れ物をしないように注意しましょう。

試験が始まって問題用紙が配布されたら、まず用紙がすべてそろっている

かどうかを確認し、学籍番号と氏名を記入しましょう。

テスト中には、不正行為と疑われるような不審な動きをしないように注意します。物の貸し借りなど厳禁です。不正行為をして全科目0点で停学処分などを受けることがあります。

(4) 試験後の対応

多くの学生は、テストの結果のみに一喜一憂するだけのようですが、試験後にどういった行動をするかはとても大切です。試験終了後は、二度と試験やノートを読まないようでは、せっかく学んだことが身につきません。自分の解答を思い返しながら、完璧な解答案を作成してみましょう。このように試験後に自己の試験内容を検討することを習慣化しておく、次回は同じ間違いをしなくなるので、確実に力がついてきます。

3 成績評価と単位認定

〔1〕成績評価

成績評価は、試験特定及び平常授業（出席や学習状況）における得点の総合点を100点満点として行います。各授業科目の成績評価の方法は、シラバスに詳細に書かれていますので、各自が履修している科目については十分に読んでおきましょう。

評価、評語は次のとおりです。

評語	配点	合格
秀	100点～90点	合格
優	89点～80点	合格
良	79点～70点	合格
可	69点～60点	合格
不可	59点～0点	不合格
棄権	—	—

※ 「棄権」とは、定期試験当日に欠席し、受験しなかったもの。

〔2〕単位認定

評語が不可及び棄権以外の科目については、当該授業科目所定の単位を修得したものと認定します。単位認定は、前期修了科目については前期に、後期修了科目については学年末に行います。不可は不合格となり、単位認定は行われません。不合格科目の単位を修得するためには、次の年次で再履修をしなければなりません。

<GPA制度>

最近話題になっているGrade Point Average制度について説明しておきます。GPA制度とは、米国において一般的に行われている学生の成績評価方法の一種で、一般的な取扱い例は次のとおりです。

●各科目の成績が5段階(A, B, C, D, F)で評価され、それぞれグレード・ポイント(A=4, B=3, C=2, D=1, F=0)が与えられます。この単位あたり平均がGPAです。

●単位取得はDでも可能ですが、卒業のためには通算のGPAが2.0以上であることが必要とされます。

<参考文献>

●「大学の学びはじめ」
著者代表：佐藤智明
ナカニシヤ出版

●「広げる知の世界」
大学でのまなびのレッスン
著者代表 北尾謙治
ひつじ書房 2005'1

●「大学基礎講座：充実した大学生活をおくるために」
著者：藤井哲也
北大路書房 2006'